vol.340

“馬は馬方、餅は餅屋、情報はマック”
THE MAC JOURNAL
三菱商事アグリサービス株式会社

◆2010年5月26日発行ラインナップ◆
・菱肥会ブロック交流研修会in宮崎
・ＪＧＡＰニュース

菱肥会ブロック交流研修会in宮崎

五月晴れに恵まれた５月11日～12日、菱肥会ブロック交流研修会が宮崎市で開催された。今回は九州菱肥会が中心となって企画運営し、会員28社、賛助会員、ゲスト、事務局の総勢47名参加した。開催地の宮崎県では４月に口蹄疫（特定家畜における伝染病）が発生し、本会開催への影響も懸念されたが、開催場所が同疫発生地区から離れていたこと、同疫の人体への感染は確認されていないとの事から開催にこぎつけることが出来た。中でも地元宮崎県にて口蹄疫の渦中にありながら、(資)菊池商店の菊池社長並びに九州菱肥会会員の皆様には本会開催に多大なるご協力を頂き感謝申し上げたい。

交流研修会は、菱肥会全国連合会豊田理事長、当社上杉社長挨拶の後、三菱商事㈱次世代事業開発ユニット吉田シニアアドバイザーより「新農業時代」と題しての講演があった。吉田先生は和歌山県庁入庁後、慶応大や地方分権研究会の研究員を経て、その見識をかわれて内閣府の事業仕分け委員、規制改革委員を歴任され、昨年より三菱商事㈱に籍を置かれている。政府内での経験や地元和歌山でのミカン栽培の事例も交えながら日本農政の問題点を鋭く分析し、農地法の問題点、自給率偏重主義の限界、米の戸別所得保証制度の実態を説明された。また、政府内に入って初めて分かったとの前置きの上での「我国には明確な食糧安全保障政策がない」とのご指摘は、国内農業に携わる者として些かショッキングなコメントであった。

今後、農業の担い手として農業法人が重要視され、それは企業側による作物生産への参入ではなく、産地・生産者と企業（流通）との連携、中でも企業（流通）側がいかにリスクを取れるか、が重要になってくると持論を披露された。また、生産サイドの課題として下記の基本要件に加えて「人材の育成」も重要な点としてあげられた。加えて、三菱商事㈱の動きとして、産地側との協業事例、人材育成の事例も説明された。

吉田先生の唱える農業ビジネス化の基本要件６点を下記の通り紹介する。

①マーケットイン　⇒　販売計画に合わせて生産計画を立てる。
②プライスメーキング　⇒　再生産コストを上回る販売価格の設定。
③生産コストの削減　⇒　固定資産償却の抑制（作業委託など）。
④労働時間の延伸　⇒　人件費縮小。

（前ページより続く）
⑤ 販路の複数化　⇒　販売数量の歩留率を高める。
⑥ 加工・流通分野への事業進出　⇒　リスクテイクをして付加価値創造へ。

農場を管理できる人材の育成が不可欠！

続いて、宮崎県都城市の農業生産法人で(有)新福青果の新福社長の講演を頂いた。新福社長は、脱サラして農業の世界に身を投じ、規模拡大、法人化、ＩＴによる農場管理を進めて現在303ヶ所約100haを誇るまでに至り、農場管理にはＪＧＡＰの他にＧＧＡＰも認証取得され、また社団法人宮崎農業法人経営者協会の会長も兼務されている。

新福社長は農業を普通の産業にしたいとの思いで、給料、休暇があり福利厚生の整った農場の実現を目指し自ら実践し、一方で農場管理においては他産地に先駆けてＩＴ化を導入してこられた。今回はその熱い思いを語って頂いた。新福社長が農業の世界に入られたのは34年前の1976年、資金手当も農産物出荷も閉鎖的な時代に、地道に規模拡大を進められた。それが故に、「昨今の農業放棄地の拡大は残念なことだが、一方で意欲ある者にとっては事業機会のチャンスと感じる。資金面でも制度融資・民間銀行と窓口が大きく広がっている。農業への企業参入は進むだろうが、やはり生産者・生産法人として必要な事は『生産に特化する』こと、その為には農場を管理できる人材の育成が不可欠である」との事。同社では規模拡大する中で否応なく作業工程、管理の見直しが必要になり、それでＩＴを導入したそうだ。現在、全国から研修生として将来の農業経営者に農場管理のノウハウを指導している。この12年間で42人の研修生が巣立っていったそうであるが、その生産物の販売については支援できていない。将来的には農場のフランチャイズ化を図り、一体的な農産物販売の構築も考えているそうだ。また、新福青果では植物繊維の開発も手がけており、その一端を2007年の東京モーターショーで自動車基材への活用を披露した。実用化へもそう長くはないと紹介あった。最後に農業を目指す若い人たちに対してのメッセージとして、「カッコ良く」「稼ぎがあって」「感動のある」農業を確立していきたいとの思いを披露して頂いた。

懇親会では前述の口蹄疫騒動の中、東国原宮崎県知事もゲストとして参加頂いた。前述の(資)菊池商店／菊池社長による地元紹介、知事紹介の後に東国原知事にもご挨拶頂き、出席者全員で記念撮影を行った（前ページご参照）。翌日も晴天が続く中、ゴルフ組はダンロップフェニックスツアーで有名なフェニックスカントリークラブ、観光組は宮崎神宮、宮崎県庁、綾・酒泉の森、綾の照葉吊橋と大いに宮崎県を満喫して帰途に着いた。

今回の講演、研修を通じて、たびたび耳にしたのが「農業における人材の不足」。反面、漠然な言い方ではあるが人材次第でまだまだ成長の余地があると感じた貴重な場であった。

次回の菱肥会ブロック交流研修会は、総会と重なる来年を休みとして再来年に北海道での開催となる。是非ともこぞって参加して頂きたい。（福岡支店　塚原）

ＪＧＡＰニュース

いよいよ従来の運営・審査・認証の規則第2.3版が改定され、新たに総合規則2010年版は７月１日より審査・認証が開始される。主要な改正点は、①消費者向けＪＧＡＰ認証マークの表示②審査のタイミング、種類、有効期限③ＪＧＡＰとその他ＧＡＰとの同等性④審査機関の認定業務における信頼性、公平性の確保について。ＪＧＡＰマークは「ＪＧＡＰ認証農場で生産された農産物」だけが表示できる。また、商品の原材料の100%が「ＪＧＡＰ認証農場で生産された農産物」で、精米・緑茶・緑茶飲料・果実飲料に限って加工・製造した商品にも表示できる。2011年以降は、純米酒、焼酎など対象商品の拡大も検討している。また、ＪＧＡＰ指導員研修会も６月は休講し、７月から2010年度版での研修になる。認証期限は２年間に延長されるが、更新審査の前に維持審査（初回認証日から３ヶ月後12ヶ月以内）が行われ、審査のタイミングが変わるが、都合年一回の審査があることには変わりない。他のＧＡＰでもＪＧＡＰの管理点と適合基準が求める管理の水準を満たしていれば、ＪＧＡＰ協会が同等性認証を付与する。

連日報道されている口蹄疫のニュース。伝説の種牛「安平」（同牛の血を引く子牛は約20万頭）も殺処分されてしまいました。宮崎牛ブランドを支えてくれた宝として、現役引退した後も大切に飼育されていたそうです。一日も早く収束してくれることを祈るばかりです。

編集局長：小田原次洋　　アシスタント：助川尚子
電話：03-5802-2011/E-mail： macjournal@mcagri.co.jp　URL http://www.mcagri.jp